

銚子谷 青川溪谷

青川渓谷の開発史 江戸時代の元禄年間に三鉱谷で銀鉱脈が発見され、幕府の鉱山奉行出張所が青川渓谷の岸尻に設けられ、本格的な採掘が行われた。摂津（兵庫）から人々を集めめた。文政もも親子といふ大野九郎衛門敷²は鉱石1kgにつき2・6日ももくを大野九郎衛門敷³といふ。彼の屋敷は「足右衛門の名である。赤穂の大勢の姫婿ももきていた。大勢の女郎の名である。大野九郎衛門敷⁴が仇討ち成功して、四十七士が当地を失敗し、そこを去った。明治になつて、地主は大野九郎衛門敷⁵の孫である。現在は、この地に経営する大野九郎衛門敷⁶の娘の藍子がこの地に住んでおり、娘の有里がこの地で没した。

